

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 ウオッシュマン・ザ・トニック  
会社名 株式会社本荘興産  
住所 岡山県倉敷市児島塩生2764  
電話番号 086-475-0950  
推奨用途及び使用上の制限 推奨用途：自動車洗浄用  
作成 2018年4月1日

---

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 環境有害性

水生環境有害性（急性） 区分 1  
水生環境有害性（長期間） 区分 1

※記載なきものは分類対象外または分類できない。

#### GHSラベル要素

##### シンボル



#### 注意喚起語：警告

##### 危険有害性情報

水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

##### 注意書き

##### 安全対策

環境への放出を避けること。

##### 応急措置

漏出物を回収すること。

##### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

---

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名	CAS No.	含有量(%)	化審法番号
N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド	1643-20-5	< 10	2-198
エタノール	64-17-5	< 10	2-202
プロピルアルコール	非公開	< 1	非公開

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

記載なき成分は日本公表危険物質リスト(NITE 平成28年度)に該当しません。

#### 危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

エタノール

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エタノール，プロピルアルコール

化管法「指定化学物質」該当成分

N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド

---

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

---

### 5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

この製品自体は燃焼しない。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

日本産衛学会の許容濃度データなし

(エタノール)

ACGIH(2008) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

(プロピルアルコール)

ACGIH(2006) TWA: 100ppm (眼および上気道刺激)

ばく露防止

設備対策

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質：非浸透性もしくは耐化学品ゴム

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗う。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状態

形状：液体

色：黄色透明

臭い：特異臭

pH：7

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：100℃

引火点：適用外（不燃性）

比重/密度：0.998

溶解度

水に対する溶解度：溶ける

---

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

混触危険物質

強酸化性物質

## 11. 有害性情報

---

## 毒性学的影響に関する情報

### 急性毒性

#### 急性毒性（経口）

[日本公表根拠データ]

(N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド)

rat LD50=1267 mg/kg (NITE初期リスク評価書, 2007)

(プロピルアルコール)

rat LD50=2200 mg/kg (環境省リスク評価(第6巻, 2008)

#### 急性毒性（経皮）

[日本公表根拠データ]

(プロピルアルコール)

rabbit LD50=4000 mg/kg (PATTY 5th, 2001)

### 局所効果

#### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

(N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド)

ラビット 強度の刺激性 (SIDS, 2007)

(エタノール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998et al)

(プロピルアルコール)

ラビット 重度 (ACGIH, 2004et al)

#### 感作性データなし

#### 生殖細胞変異原性データなし

#### 発がん性

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

cat.1A; ACGIH 7th, 2012; IARC, 2010

[会社固有データ]

(エタノール)

IARCでは、「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある。」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系および肝臓のがんの因果関係を認めた為である。

他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA3（確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明の物質）に分類している。本製品に用いるエタノールは飲用でなく、多量のばく露を想定する必要もないため、エタノール起因の発がん性を区分外とした。

(エタノール)

IARC-Gr.1：ヒトに対して発がん性がある

(エタノール)

ACGIH-A3(2008)：確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明  
(プロピルアルコール)

ACGIにnH-A4(2006)：ヒト発がん性因子として分類できない

#### 生殖毒性

[日本公表根拠データ]

(エタノール) cat. 1A; human : PATTY 6th, 2012

(プロピルアルコール) cat. 2; rat : ACGIH, 2007

[会社固有データ]

(エタノール)

妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを摂取したアルコール依存症の女性と関連して、胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られているが、産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。

また、EUでも生殖毒性がある物質としては分類されていないため、エタノール起因の生殖毒性を区分外とした。

#### 催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

#### 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(エタノール) 気道刺激性 ( PATTY 6th, 2012 )

(プロピルアルコール) 気道刺激性

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(エタノール) 麻酔作用 ( PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005 )

(プロピルアルコール) 麻酔作用 ( PATTY 5th, 2001 )

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(エタノール) 肝臓 ( DFGOT vol. 12, 1999 )

[会社固有データ]

(エタノール)

ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼし、最も強い影響を与える標的臓器が肝臓である (DFGOT vol. 12 (1999) ) との記載に基づき区分1 (肝臓) 、また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述 (HSDB (Access on

June 2013) ) から区分2 (中枢神経系) ととしているが、本製品に用いるアルコールは飲用でなく、多量のばく露を想定する必要もないため、エタノール起因の特定標的臓器特性 (反復ば

く露)を区分外とした。

[区分2]

[日本公表根拠データ]

(エタノール) 中枢神経系 (HSDB, Access on June 2013)

吸引性呼吸器有害性データなし

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

水生毒性 (急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド)

藻類 (*Pseudokirchneriella subcapitata*) EC50=0.1mg/L/72hr (環境省リスク評価第3巻, 2004)

(エタノール)

藻類 (クロレラ) EC50=1000 mg/L/96hr (SIDS, 2005)

(プロピルアルコール)

甲殻類 (ミジンコ) LC50=3025mg/L/48hr (EHC102, 1990)

水生毒性 (長期間) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド)

藻類 (*Pseudokirchneriella subcapitata*) NOEC(r) = 0.004 mg/L/72hr (環境省リスク評価第3巻, 2004)

(エタノール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6 mg/L/10days (SIDS, 2005)

水溶解度

(エタノール)

混和する (ICSC, 2000)

(プロピルアルコール)

100 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

残留性・分解性

(N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド)

急速分解性なし (BOD: 54, 52, 82%/28 days; TOC: 68, 54, 81%/28 days; LC-MS: 100, 100, 100%/28

days (通産省公報, 1995))

(エタノール)

急速分解性あり (BODによる分解度：89% (既存点検, 1993))

生体蓄積性

(エタノール)

log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)

(プロピルアルコール)

log Pow=0.25 (ICSC, 1999)

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

---

### 13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

---

### 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号：3082

品名 (国連輸送名)：

環境有害物質、液体、N.O.S.

国連分類 (輸送における危険有害性クラス)：9

容器等級：III

指針番号：171

特別規定番号：274；331；335；375；A97；A158；A197

環境有害性

MARPOL条約附属書V 海洋環境に有害な物質

発がん性：区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール

生殖毒性：区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール

水生環境有害性：急性区分1 該当物質

N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド

水生環境有害性：長期間区分1, 2 該当物質

N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード



有害液体物質 (Y類)  
プロピルアルコール  
有害液体物質 (Z類)  
エタノール

---

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令  
毒物及び劇物取締法に該当しない。

### 労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

エタノール

名称通知危険/有害物

エタノール; プロピルアルコール

### 化学物質管理促進 (PRTR) 法

第1種指定化学物質

N, N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド (10%)

消防法に該当しない。

### 化審法

優先評価化学物質

N, N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド

### 船舶安全法

有害性物質 分類9

### 航空法

その他の有害物件 分類9

---

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013),  
UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECN06182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2017 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合

には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 平成28年度)です。